

キャリア形成と人とのかかわり



平坂雅男

(公社)高分子学会
[104-0042] 東京都中央区入船3-10-9
常務理事, 工学博士.
専門は技術経営, バイオミメティクス, 構造解析.
m.hirasaka@spsj.or.jp
<https://www.spsj.or.jp/>

先輩からのメッセージとして本誌に登場するには年齢的に異色かもしれない。企業の中央研究所で20年、本社の研究企画部や知的財産部で15年以上を過ごし、そして、高分子学会に2014年に着任した。大学院で時間分解ラマン分光法によるフォトクロミック分子の構造解析を行っていたことから、入社し配属された分析グループではフィルム分析のために、市販もされていない顕微ラマン分光装置の組み上げを一任された。また、ラマン分光法によりシリコンの結晶性が評価できることから、ほかの研究グループのアモルファスシリコン太陽電池の解析も担当することになった。そして、オージェ電子分光法による太陽電池の解析を北海道大学との共同研究で進め、この研究を通して学位を取得することができた。その後、原子レベルでの解析が必要となった記録材料の研究のために、無機材質研究所(現 物質・材料研究機構)で超高分解能電子顕微鏡による解析技術を習得し、研究生活の後半は電子顕微鏡が専門となった。これまで、構造解析を通して多くの研究テーマに関与できたこと、また、共同研究の大学や研究機関で厳しく指導していただいた先生方に本当に感謝している。

企業では、研究所での経験を経て、研究開発や事業開発などの本社スタッフに異動することも多い。私も、研究企画の本社業務に就き、経営の視点から研究開発をみる立場になった。研究企画や事業企画は、より実践的な業務であり、研究とは違った面白みがある。本社では、難しい局面の仕事を担当することも多く、このような仕事により成長することもできた。これまでの、研究、調査、企画、法務、知財、システム、財務、人事などすべての経験は、現在の高分子学会での業務にも活かされている。また、企業で統轄した組織には女性が多く、日頃からダイバーシティーを意識することなく仕事できたことも良い機会であった。高分子学会の事務局も、職員の半数以上が女性であり、また、さまざまなキャリアをもつ職員が働いている。

高分子学会の職員に着目すると、年次大会、討論会、ポリマー材料フォーラムなどの運営ではこれまで職員が経験した知識が活かされ、また、毎年ノウハウが蓄積されている。新型コロナウイルス感染症の感染リス

クを考慮して、2020年9月の高分子討論会はオンライン開催となったが、システム設計も含めて職員が一丸となって準備したことは驚くべきことであった。非定常業務に対応できる能力は、これまでの経験が活かされている。

自己のキャリアパスは、業務経験によって築かれるが、経験を通して培った思考法はこれまでに関係した人々からも大きな影響を受けている。経験が人を育てると言われているように、若い人たちは、自分が成長するためにさまざまな経験が必要であることを知ってほしい。古きを温(たず)ねて新しきを知る「温故知新」ではないが、これまでの広く豊富な経験から新たな知を得ることができる。

さて、私事を振り返ると、生まれ育った東京牛込の下町は、印刷、製本、裁断・型抜き加工、製紙原料と出版業を支える準工業地帯であり、実家も古くから製紙原料商を営んでいた。街では、近所の大人が子供を叱り、マナーやしきたりを教えるなど、ある意味での教育の場でもあった。まさに、漫画「三丁目の夕日」のような光景であった。街の生態系は崩れたが、今も生まれ育った街で暮らし、秋の祭礼では神輿をかつぎ、直来(なおり)では長老たちと話す機会も多い。

人とのつながりを考えると、小学校時代にはサッカー、中高大でのフェンシング、そして、社会人になってスキーやヨットを通じて知り合えた友人は、今でも、大きな財産である。最近では、時間があればプールに通っている。水泳が苦手なことからスイミングスクールに入るようになり、また、新たな人とのネットワークができた。元オリンピック選手から自営業まで、仕事も年代も違う人たちと知り合いになった。そして、これまでの世界とは異なる話を聞くことが楽しみとなっている。妻もスポーツ好きであることから、スイミングは生涯スポーツとして夫婦で楽しめそうである。

話の本題であるキャリア形成は、「自分」らしさの追求でもある。仕事の経験のみならず、私事における人との交流が「自分」らしさを生み出す価値観を醸成する。若い人たちには、キャリア形成の過程で出会う人々とのかかわりが大事であることを認識してほしい。